

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



「脳の解析データを見て絶句し、自分の子どもにスマホを与えたことを大いに後悔しました」

これは、東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太先生が、ご自分の著書に書いている言葉です。

川島先生は、仙台市教育委員会と協力して、7万人以上の小中高校生のデータを元に、スマホの使用と学力テストの得点との関係について解析し、結果を著書で公開しています。私は、川島先生の講演を聴き、著書も読みました。衝撃的な内容でした。スマホの使用が、子どもたちの学力テストの得点に深く関わっているという客観的な証拠を突きつけられたような思いでした。内容を一部紹介します。

子どもたちを、6つのグループに分けます。

- ① スマホを使っていない
- ② 使っているが、一日に1時間以下に抑えている
- ③ 一日に1～2時間使っている
- ④ 一日に2～3時間使っている
- ⑤ 一日に3～4時間使っている
- ⑥ 一日に4時間以上使っている

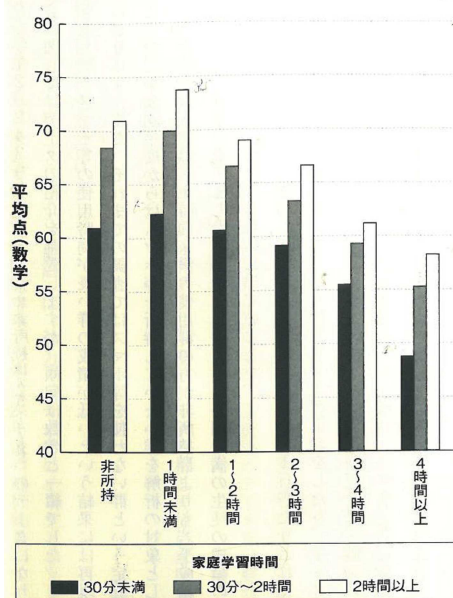
子どもたちの、普段の家庭学習時間も調べました。

- A 一日30分未満
- B 一日30分～2時間
- C 一日2時間以上

家庭学習の時間が長い子ほど、成績が良いのは当然です。スマホの使用時間が長くなるほど、成績は低い傾向が見られます。一番右の白いグラフと、一番左の黒いグラフを注意深く比べてください。スマホを4時間以上使用していると、毎日2時間以上の家庭学習をしているのに、スマホを持たずに30分すら家庭学習をしていない子どもたちに負けています。せっかくの2時間のお勉強の中身はどこかに消えてしまっています。「勉強したからスマホやってもいいでしょ」「スマホやるけど、お勉強もやるよ」が通用しないということです。もう一つ、注目したいのは、スマホの使用を1時間以下に抑えている子どもたちの成績です。自分の行動を、自分でコントロールするという自制心を持っている子どもたちの成績が一番良いというデータがここにあります。

天沼小だより3号、4号でお伝えした「自制心」の大切さがご理解いただけると思います。スマホを持たせても、1時間に抑えさせれば大丈夫、なのかも知れません。力尽くで制限するのではなく、自分から我慢することが大切です。スマホを持たせるには、使い方についての約束をしっかりと守らせるだけの相当の覚悟が必要のようです。

グラフ2-4 平日のスマホ等使用時間(平成26年度)



『スマホが学力を破壊する』川島隆太(集英社新書)